

取組の成果（令和7年度）

令和7年度の運動あそび教室では、多くの園児が、これまで『できない』と感じていた運動を克服し、自信をつけることができました。グラフは、教室前後での各種目の達成状況の変化を示しています。



①逆上がり

	できない	1回できる	2回以上連続
教室前	83%	14%	3%
教室後	58%	28%	14%



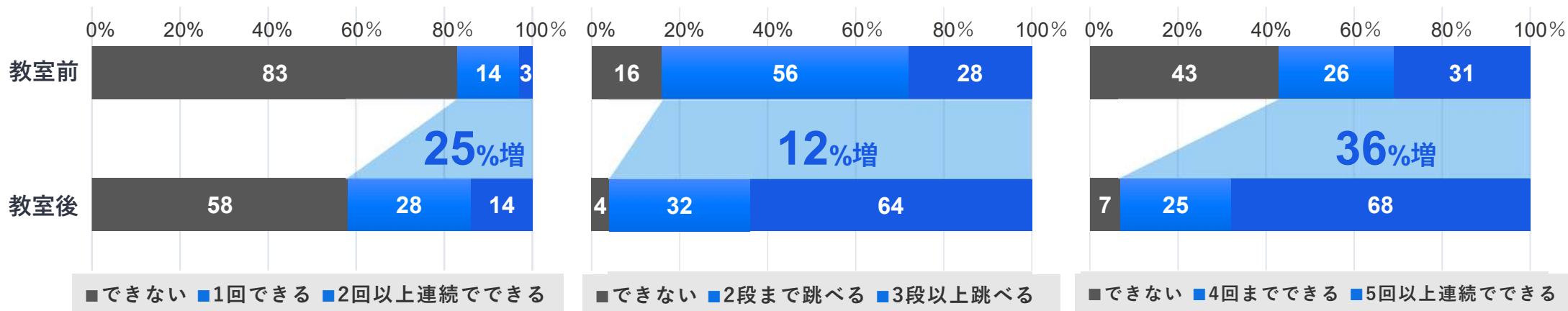
②とび箱

	できない	2段まで跳べる	3段以上跳べる
教室前	16%	56%	28%
教室後	4%	32%	64%



③縄跳び

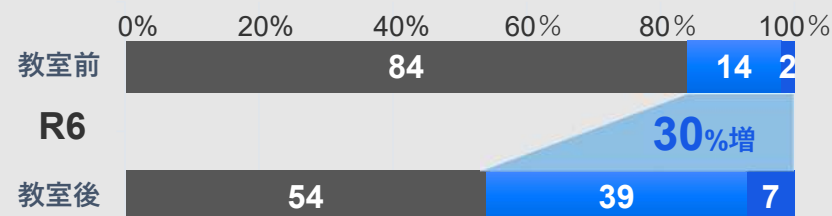
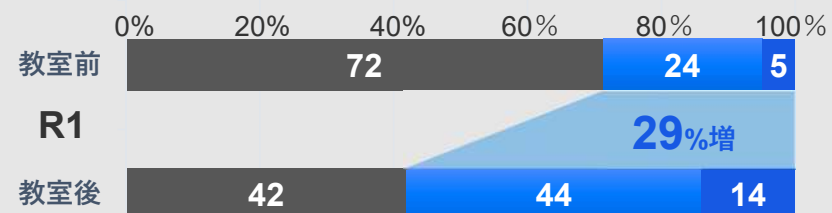
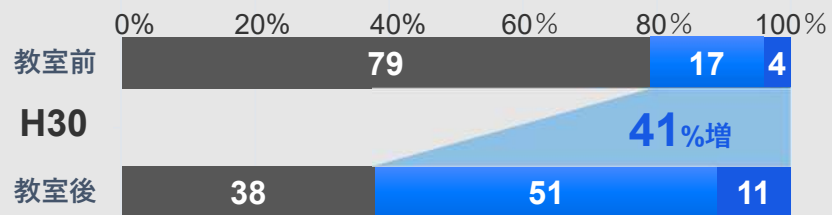
	できない	4回までできる	5回以上連続
教室前	43%	26%	31%
教室後	7%	25%	68%



「できない」から「できた！」へ

取組の成果（経年比較）

4年間の教室前後の変化を示しています。

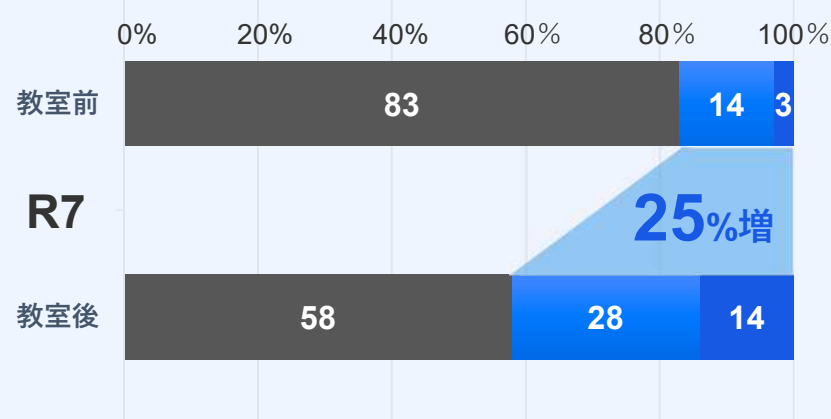


■ できない

■ 1回できる

■ 2回以上連続でできる

逆上がり



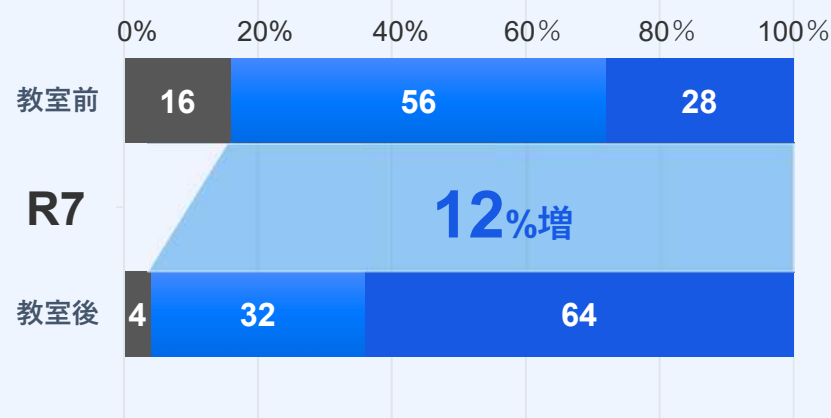
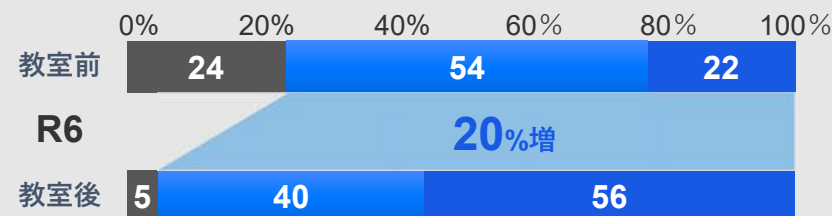
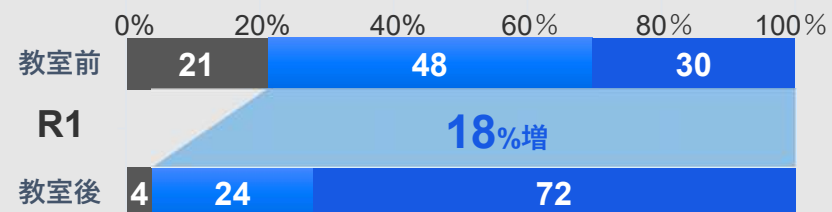
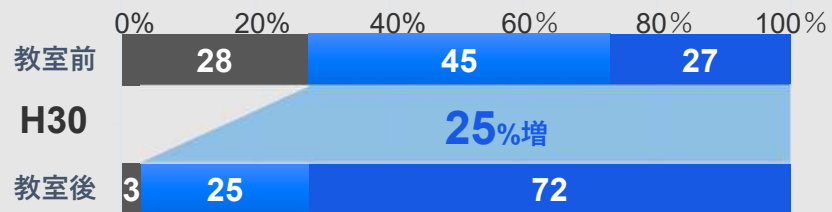
- R7は、R6と概ね同様の傾向を示しました。新型コロナウイルス感染症流行以前と比較すると、この2年間は、教室前後ともに苦手意識を持つ園児がやや多い傾向が見られます。

対象：年長児

※R2～R5は新型コロナウイルス感染症流行の影響によりデータなし

取組の成果（経年比較）

4年間の教室前後の変化を示しています。



- 全ての年度において、教室前から既に跳べる園児が多く見られます。また、教室後には、ほとんど全ての園児が跳べるようになり、着実な身体能力の向上が確認できます。

対象：年長児

■ できない

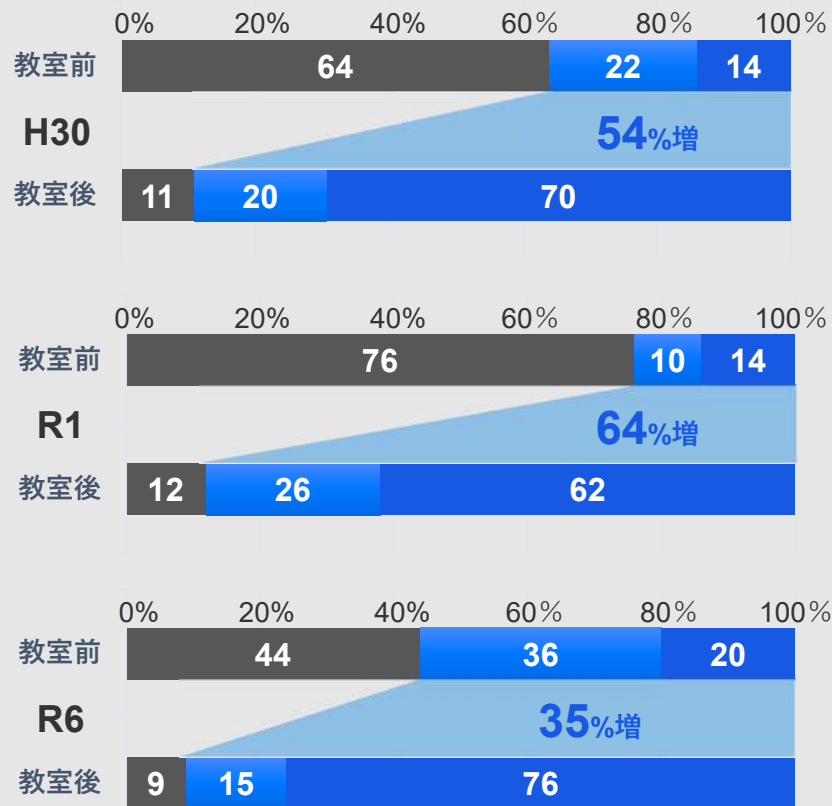
■ 2段まで跳べる

■ 3段以上跳べる

※R2～R5は新型コロナウイルス感染症流行の影響によりデータなし

取組の成果（経年比較）

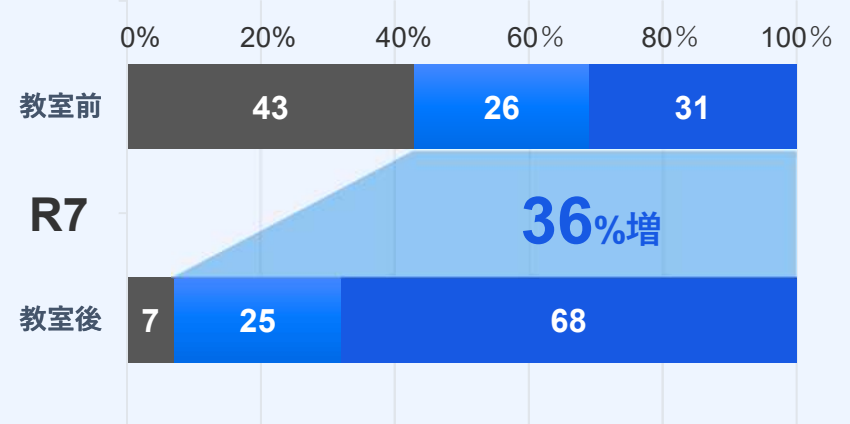
4年間の教室前後の変化を示しています。



■ できない

■ 4回までできる

■ 5回以上連続でできる



- R7は、R6と同様の傾向が見られました。新型コロナウイルス感染症流行以前と比較すると、教室前の段階から、既に縄跳びができる園児が多くなっています。運動あそび教室の継続的な取組により、縄跳びが得意な園児が着実に増えています。

対象：年長児

※R2～R5は新型コロナウイルス感染症流行の影響によりデータなし

最高記録（市内12園）

市内12園の年長児が運動あそび教室で達成した最高記録をご紹介します。
子どもたちの努力と挑戦が実を結び、素晴らしい記録が生まれています。

逆上がり

28回

連続回数



▲
13回

とび箱

6段

最高段数



▲
4段

縄跳び

226回

連続回数



▲
110回

教室後

教室前

教室の感想①

運動あそび教室は、単に体を動かすだけでなく、子どもたちの心と体の成長に多岐にわたる良い影響をもたらしました。各園の保育士から寄せられた声をご紹介します。

1. 運動への興味と楽しさの発見

運動を通して、体を動かす楽しさを発見し、自分から積極的に運動に取り組む姿が見られるようになりました。

2. 身体能力の向上

様々な運動器具やボールを使った遊びを通して、身体能力が向上しました。マットでの前転や鉄棒の足抜きなど、これまで難しかった技も自信を持って習得できました。

3. 身体コントロール能力の向上

転倒が減ったり、良い姿勢を保てるようになるなど、身体のコントロール能力が向上しました。

4. 継続的な運動習慣

習った技を繰り返し遊ぶなど、日常的に運動を楽しむ姿が見られ、自然と継続的な運動習慣が身につきました。

5. 恐怖心の克服と自信の獲得

鉄棒をはじめとする運動器具への恐怖心を克服しました。成功体験を積み重ねることで、苦手意識を払拭し、『できる』という喜びが自信を深め、自己肯定感も高まりました。

6. 協調性の芽生え

ペアやグループでの活動、運動器具の準備や片付けを通じて、友達と協力する協調性が育まれました。

運動あそびでからだと脳と心に変化

教室の感想②

運動あそび教室は、単に体を動かすだけでなく、子どもたちの心と体の成長に多岐にわたる良い影響をもたらしました。各園の保育士から寄せられた声をご紹介します。

7. 自発性と行動力の向上

教えてもらったことをすぐに実践するなど、主体的な行動意欲が育まれました。日常生活においても、自ら考え行動する自発性が向上しました。

8. 規律と集団行動の習得

『返事をする』『最後まで話を聞く』『順番を待つ』など、集団生活における基本的なルールを意識できるようになりました。指示された行動を適切に行う意識が芽生えました。

9. 日常生活への好影響

身体を動かす楽しさを知り、食欲増進や外遊びの増加など、健康的で活動的な生活習慣が定着しました。

10. 挑戦意欲と積極性の高まり

『やってみたい!』という前向きな意欲が芽生え、運動器具への抵抗がなくなりました。新しい技や運動にも積極的に挑戦する姿が見られました。

11. 的確な指導

講師による分かりやすい指導と、一人ひとりに合わせた丁寧なコツの伝授により、子どもたちの運動への理解が深まりました。

12. 講師との交流

講師との交流が、自信や社会性の向上につながりました。担任ではない外部の講師の存在が、子どもたちにとって良い刺激となりました。

運動あそびでからだと脳と心に変化